

【体育・小5・「マット運動」】 ①

育成を目指す資質・能力

- (知識及び技能) マット運動の行い方を理解するとともに、回転系や技巧系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすることができるようにする。
- (思考力、判断力、表現力等) 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- (学びに向かう力、人間性等) マット運動に進んで取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

ICT活用のポイント

- ・タイミングに応じた動画資料(手本)の参照 ・動画撮影による運動の可視化 ・自身の運動と手本の比較(並列表示)

【つかむ】前時までの学習を振り返り、本時の学習の見通しをもつ。
技に挑戦しながら、自分や友達の課題を見付け伝え合おう。

【追究する・活動1】自分が挑戦する技に取り組み、課題をつかむ。

【追究する・活動2】自身の動画を確認したり、友達と課題を伝え合ったりし、分かったことを意識して技に取り組む。

【まとめる】本時の学習について全体で共有し、個人で振り返る。

事例の概要

- 児童が自分のタイミングで参考にできる動画資料を提供することで、目指す動きを視覚的にイメージできるようにする。
- 班の児童同士で協力しながら、互いの試技を撮影し合うことで、自身の動きを可視化して捉えられるようにする。
- 手本の動画と自身の動画を並べて比較することで、具体的な改善点が考えられるようにする。

【事例におけるICT活用の場面①】

- 自分が選択した技に挑戦しつつ、自分のICT端末を用いて動画資料(手本)を自由に参照し、試技を繰り返す。

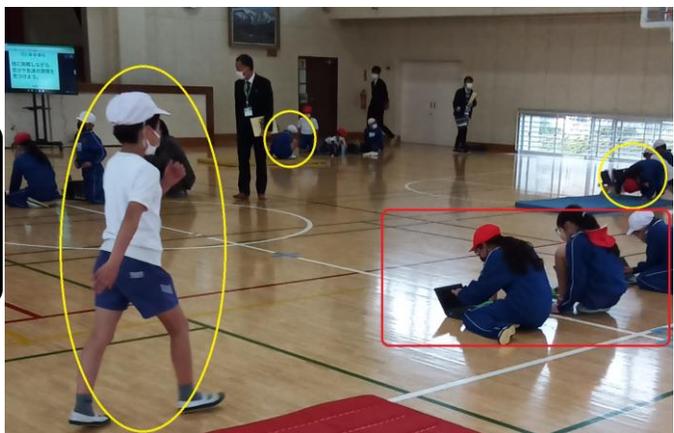
【事例におけるICT活用の場面②】

- 撮影してもらった自身の動画や友達の動画を確認し、運動の様子をつかむ。
- 手本の動画と自身の動画を並べて比較し、それらの共通点や相違点をもとに、班の児童同士で教え合う。

【体育・小5・「マット運動」】 ②

【事例におけるICT活用の場面①】

写真1



【事例におけるICT活用の場面②】

写真2



写真3

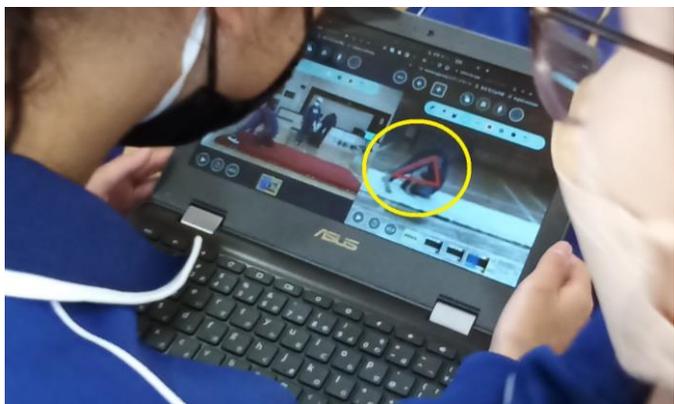


写真1は、【追究する・活動1】の過程において、教師から配布された動画資料（手本）を参考にしつつ（赤枠内の児童）、自分が選択した技を練習している（黄色枠内の児童）様子である。 ※手本は教師による試技の様子

児童は、再生速度を変えたり、注目したいところで動画を止めたり、あるいは繰り返し再生したりしながら、自分のタイミングで動画資料を参照し、試技に生かそうと取り組むことができた。

【活用したソフトや機能】

- ・カメラ
- 動画撮影
- ・学習支援ソフト
- 動画資料配布
- 動画再生
- 静止画への描きこみ
- 撮影動画提供・提出

写真2は、【追究する・活動2】の過程において、班の児童同士で協力しながら、マット運動の様子を撮影し合っている様子である。撮影した動画は、学習支援ソフトを用いて、試技をした児童に提供される。

教師の指示により、撮影を担当する児童は、試技者の側面から動画を撮影している。これは、手本の動画や静止画の資料と、自身の運動の様子を同じ視点で比較できるようにするためであり、大変有効であった。

写真3は、【追究する・活動2】の過程において、教師から配布された動画資料（手本）と、自身の運動の動画を並べて表示し、比較しながら児童同士で教え合っている様子である。また、学習支援ソフトの機能を用いて、動画を静止した画面に赤線を描きこみ、動きを分析している（黄色枠内）。

手本と自分の動画を並べて表示することで、それらの共通点や相違点に気づきやすくなり、児童同士の教え合いもより具体的かつ活発になっていた。その教え合いの中で、児童が自発的に赤線を描きこみながら友達に説明をしており、より説得力のある指摘ができていた。効果的な活用方法であるとともに、普段から児童自身がICTを活用してきたことによる、情報活用能力の高まりが感じられる場面であった。